

佐伯藩 藩政條目 (下)

山 田 平 之 丞

(奉公顧問 佐伯市北中區)

第三節 寛深五人組帖 (承前)

一 神を敬ふ佛を信する事は人情の常なり、老若男女莫きを盡し候義肝要之事

一 新地之寺社建立之教堅く御停止に候、惣て保古良並に念佛題目堂大きなる石塔供養塚田畑山林又者道端に新規取高申間敷候事

附新規祭礼取立申間敷候並に寺社小院共に住持社人替り候は、可注進一事

一 佛神致し間敷候得者御中に限らず左とへ他村へ参り間敷候共前方其旨注進申出べし、萬一他國より神靈等送り末候様なる或有之候共曾て請取不申、尤も少シの間も差置申間敷事

一 在家を借り佛壇を構え説法利用を求む可らず、前々より波り出所也、此趣を奉存在家へ請僧不可置有米ノ妻帯道場の外は左とへ佛壇無之共在家に他領より出家入込聴衆を集め説法致候義從公儀御停止被仰付置候間違背仕間敷候事

附役所へ無新して出家山伏諸社之神主等他領より撰りに入未勸化候は、在浦共に立入べからざる事

一 於三浦々々為漁祭一放歌あやつり芝居為仕候義は格別於二在方一古之類堅く仕間敷候事

一 兼て被仰付候通御年貢米皆済無之以前借銀返済仕間

敷候事

一 家老用人郡代其外諸役人無役の面々に至る迄金銀米銭衣類諸道具其外少分之物にては音物馳走々間敷義一切仕間敷候旨別紙御法度被仰出一條通、痛、堅、可相守之、若相背密々には音物仕、有有之者後日に聞工敷と云ふとも大庄屋小庄屋其品にたづさはる者とも急度曲事可申付候、何事によらず右之面々非分之義仕掛候得者早速以言付、可注進之、且又賣物等仕候は、其所之相場値段を以て当座品物取立可賣被、少も賣掛仕間敷候事

一 就御用一在浦へ相廻候諸役人又日檢使等に被遣候節其人之高下大小を不輸敢て粗差無礼仕間敷候、尤古之節何にては其取有令者一菜口出之候義亦被仰付置候上日百姓馳走曾て不致、内夫之外無用之人敷、不集、諸事費無之様仕り酒肴は不致申、何にては調置間敷候、若入用無之物調置百無共守令是を費し村入用に別掛、候得者大庄屋小庄屋可為越段一事

附廻節之節差圍之外人馬集置、百姓、際費し申間敷候事

一 御米印は不及申公儀御用之義何方より申末候共且附少も無滞取付、其外何にては早々先々へ急度相届相互に請取手形取立相違無之様、可仕事

一 村中諸入費入用掛り物大庄屋小庄屋吟味、上申付候は、且物割帳に委細付立、一ヶ年限勘定細、仕り右帳面可差出候、尤庄屋手前にては一通取置仕、此外當座入用、外帳面に記副仕間敷候事

一 洪水之節堤川除き、れが、様、に、常々、村中申合、町、可守候道橋損、候は、往來之障成候敷、田畑損、仕候は、早速修理仕り、其旨可注進一事

一 鄉村用水之義先規之例を以引之、可及、湯水、休に候は

日其後訴出べし。我儘に堪いたし又は切落し取申間敷候。若シ水論並に堺等之爭論仕出シ候節者賜差替之類ヲ持出し申間敷候。勿論加勢いたすべからず。若し疵付々候敷打擲仕り候て立居難成程痛ミ候件に候はゞ理非を不論相争急度曲事に可申付一候事。

掛振落極を埋ノ又は道とせはめ。林場林際を切りてへ田畑仕出し作毛仕付申間敷候。心新道新垣等仕候は、大庄屋小庄屋可為越度。若新道新垣等いたさずて不叶場所之候は、其旨可請下知事。

附村々先規より有未り候道橋破損之節は早々修覆可仕事。

一他領堀目等詳論無之候常々吟味致すべし。尤理不尽の挙動仕らす若先方より無筋目義申掛当座止ム事と不得及ニ事論一者其旨趣早々可仕進。但右之節武道具持出候義ハ禁之。且又面々持山堀目ヲ是又記シ置キ敷而草木之根々無故して掘取不申山林に苗木植立可申候。田畑に山崩れ砂入等無之候に可仕候事。

一山中にて焼畑いたし来り候所は其通り然れ共立木一切焼申間敷候若し風にかり候は、待ニ差圖伐採すべし。新規焼畑仕候義は勿論野山焼候義一切令禁止之候。尤井手川除普請入用ノ左め候間專ラ可立置一候事。

附村浦共山野ヲかりシキ草又ハトマカヤ等為ニ入用。前々より焼来り候野山と云ふ共々々其前及別書付を以て御山奉行迄相断り差圖を請ケ候可申事。且又四方ノ堀目近き山林に他領ノ者入込ハ竹木伐採候事有之候村中ノ首罷出差留べし。尤其次等急度可仕進一候事。

一諸鳥巢をくひ、玉等有之時分より巢立候迄普崇の有之竹木をば左とハ御用たりと云ふ共不可伐レ之事。一田畑少々所成共永荒川欠起なり又は切添切削一畝一

歩之所にては無隱可申出。若隱田隱野之地有之者当人は不及申。詮議之上地隣之者並に其村大庄屋小庄屋五人組迄可為ニ曲事一候事。

一衣類諸道具總てハツシ之金物之類出所不知賣物一切買取申間敷候。右之品々質に取リ又は預リ置間敷候。左とへ出所知る者にては請人無之賣物取申間敷候事。

一神事祭礼又は葬礼年忌ハ仙事或は婚礼諸事ヒロメノ祝儀等分限より軽く致し百姓に不似合ノ結構仕間敷候。仙事ヒソカに致し人大勢集ハ大酒仕間敷候。

附祝言仕候者水祝之戒令ニ停止一候事。

一総て男女共乘物鞍に乘リ申間敷候。尤家作等目立候普請不仕万端ヲゴリケ間敷義仕間敷候。衣類之類ハ前々被ニ仰出候通布水綿之外絹類一切着用仕間敷候事。

一百姓荷高分中ヌ義一人別拾石より内に当リ候は、配当不仕不致惣領に讓ルべし。総而致ニ分地一候敷或は新規に百姓有。附候日ニ注進すべし。跡式之義は存生ノ内大庄屋小庄屋百姓立會書付いたし置。後日に出入無之候兼て可心掛一候事。

一公儀御用は云ふに不及。往還之旅人晝夜に不散人馬無遅滞一可出之。取債之義は公儀御定メハ通一里一疋に付四分宛人足債は一里一人に付貳分宛可取之。浦方渡海ノ債者右駄賃人足等ノ積に準じ債銀可取之事。

右之餘々今度被ニ仰出候間整ク可相守之。若於違背有之急度曲事可被ニ仰出也。

寛保二年壬戌十一月

(山田云。右五人組帳は毎年正、五、九、三月の三度庄屋屋敷に村中を集めて読聞かせ、趣旨ハ徹底ハはかつていた。)

第四節 御仕置五人組帖

(所方へ御觸り分)

覺

一 從前々一被仰出候御法度之趣所中のもの彌堅相守御制法少も相背中間敷事

一 切支再宗門之儀累于嚴重之御制察たり 彌堅可相守候 若疑敷者有之は早々可訴出候 隱置後日令露頭一其者不及言 所年寄其五人組共急度御仕置可被仰付候事

一 町年寄共勤方ノ儀常々下々のくらしに心を致し 世渡り困難のものあるは打寄り遂吟味一何分にも家督相続候條に可致候 勿論後家みなし子等は猶以て心を附成立縁に可致候 町年寄五人組不埒の仕方有之は吟味之上落度に可申付候事

一 町人共年寄申付候儀を信用不致もの直之は可申出候事

一 唐物扱荷御法度之儀者先達而別紙書付き以申付置候通 隔相守常無油断一遂吟味一可申候事

一 町人身持の儀諸事奮々間敷儀不仕勿論親に孝を盡し夫婦兄弟親類仲むつまじく 下民共憐愍を加ふべし 不忠不孝之者有之は異見仕其儀不用者其旨書付に記可申出候 且又家業之心掛無屋敷之人ノ妨ぎ為し年寄五人組ノ異見を不致承引入極のもの有之に於ては是亦可申出候事

一 家中輕き奉公人に至迄無礼仕間敷候事

一 捨子堅仕間敷候若他所より捨置候は町中にて養育致し其旨可申出候事

一 御法度之田地永代賣買一切仕間敷候 田地賣物に取候

は從前々一仰出候賣田地御裁許書去年申達候通隔年季と定其所之止屋五人組加判之証文双方より取替し可相極 尤年季捨箇年之限るべし 若加判無之亦証相對にて實に取違候田地有之は取上げ双方急度可申付候 勿論賣入田地之儀預候もの方より年貢諸役可相勘候 年季増候而或枚手形等取引之儀堅仕間敷候事

一 附御年賣多收納金銀借貸仕候とも庄屋肝煎裏判にて可相極一裏判無之手形御年賣方納所銀等皆引候書入有之候て及出入一候は品に寄取上げ間敷候事 一 曰坪明神御祭礼の時節芝居受の儀兩年は内町一ヶ所船頭所に被仰付候間此段無間違一相心得候事

一 人宿之事他國より入來候商人諸職人出家山伏行人虛器僧産頭ゴ七其外物賣ノ類宿貸し候は往來手形見届成もの候は早速書付を以て所奉行迄相達宿貸可申候 兼而申付置候通商人逗留定日數三十日過候は其余は逗留之誤書付を以て可相断一旅人煩候は其段相違養生之内可差置候 惣而行衛不知物賣續人六部之類怪シキ者に一切宿貸中間敷候事

一 所親類縁者他人たりとも他所より用事有之趣應越一夜にても宿貸し候は町年寄迄相断 罷立候は其段可申出候事

一 川内江致入津一候恭能之儀 兼々申付置候通船往來見届乗組人數積荷物川内船改町年寄地目付間屋立会相改其趣書付を以て唐物役所へ可差出一積荷物之内扱荷々間敷者有之候は其沢不隱置一可申出候 旅船賣買相仕廻帰帆候は早速書付を以て唐物改役所へ相断可申候事

一 先年より毎歲九月より翌正月頃迄他國米差留候内者船米積米候とも急度出帆申付堅々賣買仕間敷候事

一 他國之奉公に罷出候殿諸高賣守総而用事有之罷越候と

領書差出往来手形取立可相越候 勿論罷滞候は
其旨相断候事

一 他国より欠落者来り候は其子細承届早速可申出候
若町中之者他所へ欠落致候者於有之是又可注進候事
尚他領より掛込有之追手之者可召捕と云ふとも存置
に不可相渡一番人附置早々可注進候事

一 他所之沙汰虚伝日無構候間承り候義有之可申出候事
一 博奕惣而賭之諸勝負或昔高に事寄セ博奕に似たる何に
してモ一切仕聞敷候 勿論右類之者宿堅仕聞敷事

附及大酒一醉狂仕聞敷事

一 出火之節以兼て申付置候通所々後所之尺付候人夫無
油断一様常々可申付置候事

附右之節昔町中之者共不致火元へ尺付随分相勤可申
事

一 所人嫁取穿取葬礼之仕方随分手整く可仕候事

一 在浦庄屋肝煎其外船持網持日不及言諸百組より自然
両所紺屋共へ紋所形古らし付候染物濃候とも堅受合申
聞敷候事

一 在浦紺屋共右同然に可相心得候事

一 従前より勤来り候所夫役船其時々之差回数急度可差
出 尤月限人夫帳町奉行へ可差出一事

一 総行諸商売之儀前々より其時々之米直段に念じ諸物売
代替へ申儀に候此此間而所之諸商売人共右米直段之無
考諸式猥に高直に致ス段相聞エ不届候 商人之儀者
賣買之利用を以て渡世申事候へば貪りたる仕方有
之もの、由に候得共当地之儀者諸国道路海道にても無
之街領内出産之諸物所方在浦へ商売致し又且家中へ売
候より外無之候得共右三品之内何れ物事片寄候而は不
宜 我中家中末々之面々在方百姓等迄及迷惑候儀其
上諸商人申合と諸物高直に致聞敷旨御條目之一ヶ條に

候間町年寄共以不及申小商人迄商売利用之品も暇路
に有之様にも可相心得候事

一 大坂其外隣国より取り寄セ商売仕候品々は其海陸掛り
物等之致ニ差出二商売申識者可有事に候得共是とも其
程可有義に候得候限々聞敷高利と貪り候義致ス聞敷事

右之通被申出候間堅相守違背仕ル者有之は吟味之
上曲事ニ可申付候 此書正五九月年寄手前へ町
人共呼寄 年中三度宛読聞セ可申者也

右之通仰出候間向後彌堅可相守者也
享保八卯年八月十六日 西名 兵 右 衛 門
小林 九 左 衛 門

町奉行

中根 曾 右 衛 門

一 山田云 此の御觸書は高札に記して常時大手前にかか
ていたという (終)

研究

佐伯藩に於ける

キリシタン史料について

会 員 真 柴 涉

前がき 豊後キリシタンの動向

耶蘇教が豊後に伝えられたのは天文二十年(一五五二)で
時の領王大友義鎮(宗麟)二十二才の時、当時周防の山
口にいた耶蘇会の宣教師フランシスコ・ガビエルを府内